

アグネス・チャン 歌手・教育学博士

日本人の優しさ、 生かす「外交」へ

1998年に日本ユニセフ協会大使に任命されてから13年。毎年、必ず子供たちの現状や問題を視察するため、世界の「援助の現場」を訪ねてきた。戦争や貧困、病気や犯罪に巻き込まれた幼い命に触れるたび、大人がもっと子供たちの権利を守っていないかなければと痛感する。

ユニセフは、子供たちの基本的な四つの権利を守ることを目的としている。「生存」「発達」「保護」「参加」。

しかし残念ながら、今でも毎年、5歳になる前に亡くなる子は880万人。小学校に入学できない子が1億以上。2・5億の子供が強制労働同様に働かされている。100万の子供が人身売買や、児童ポルノ・児童買春の犠牲者となり、戦争が続く地域では、基本的な生活ができないばかりか、児童兵士として使われているケースもある。

さらに、近年、温暖化による気候



Agnes Chan

香港生まれ。1972年に「ひなげしの花」で歌手デビュー、トロント大学卒業。1992年スタンフォード大学教育学博士課程修了、Ph. D. 現在、歌手活動のほか、タレント、エッセイスト、大学教授など、多方面で活躍。1998年より日本ユニセフ協会大使。

変動で、洪水や干ばつなどが起き、子供たちの生命が脅かされている。子供を取りまく問題は複雑化し、時には援助する側が危険にさらされることもある。

今年2月、無政府状態が続くソマリアを視察した。比較的安定していると言われている北部の都市ハルゲイサク。いつ起こるかわからないテロのため警備体制は極めて厳重だ。南部から逃げてきた避難民の女性20

人程に話を聞いた。

「家の前では毎日のように撃ち合い。死体がごろごろしていて一歩も外に出られません」「顔にベールをしなかつただけで、友人は首を切られて殺された」。延々と続く、生々しい話に言葉を失った。

そんなソマリアの中で、ユニセフは、現在も水や食料の援助、予防注射、教育、青少年の育成などに力を入れて活動している。そしてユニセフを力強く支援してくれているのが日本政府だ。ソマリア援助は、2007年から海賊対策として再開。社会を安定させるために、ユニセフ活動も支援してくれているのだ。

この10年間、日本ユニセフ協会は、民間からお預かりする募金額は、ずっと世界一となっている。これは、日本の皆さんの、子供たちに対する

関心の高さの表れだ。「かわいそうだから助ける」というばかりでなく、日本の募金者は、子供たちの権利を尊重し、それを守るために支援してくださる。その姿勢こそ、真の日本の優しさであり、素晴らしさだと思う。

こうした日本国民の気持ちも、外交を通じて世界中の方に理解してもらえれば、素晴らしい。外交は国だけのものではない。実際には民間外交もとても重要で、日本のイメージは両方の外交によって築き上げられる。従来の外交は、自国の利益を第一に考えた上での交流だったが、これからの時代は、他国のことを考えずに、一つの国だけが利益を得る事は不可能だ。地球規模での協力・協調があるからこそ、経済も、安全保障も確保できる。つまり、「利個的な外交」の時代から「利他的な外交」の

時代がやってきているのだ。

理想論と言われるかも知れないが、私は私利私欲から解放され、世界貢献の気持ちを持って、今後の外交を展開してほしいと思う。日本には、世界から本当に信頼される国になってほしい。もし、争い事が起きたら、「仲介役には日本が一番だ」と言われるようになってほしい。日本独特の粘り強さと、日本人にしか理解できない平和を愛する心は、きつとさまざまな問題を解決に導けるはず。国の強さは、経済力や、軍事力だけではない。広島、長崎を経験した日本の、平和を愛する心の強さを世界に示してほしい。「利他的な外交」は長い目で見れば、必ず国益にもつながってくる。日本人の優しさ、平和を愛する心を世界に示す外交が、未来を開く鍵だと私は信じている。